

十日ト決定シタル事ハ争ナキ甲第一號證ニ徴シ明瞭ナリトス仍テ右補償額カ相當ナリヤ否ヤヲ案スルニ  
甲第三號證ノ一三四ハ本件武村市左衛門ノ被收用地ニ隣接セル服部仁三郎被收用地ノ價格鑑定書ニシテ  
鑑定人和田辨之助篠田忠兵衛ハ明治四十四年八月頃ニ於テ一坪金七拾圓川崎作右衛門ハ右時期ニ於テ  
一坪金八拾五圓ノ價格ヲ有スト各鑑定スル旨記載アルト鑑定人九里吉太郎ノ本件收用地ノ收用時期ニ於  
ケル價格ハ何レモ一坪金六拾圓ナル旨高橋三之助ノ之ヲ金四拾七圓トスル旨ノ各鑑定トテ對照參酌スル  
トキハ本件被收用時期ニ於ケル價格ハ一坪金六拾五圓ニ相當スルモノト認定セサルヲ得ス而シテ鑑定人  
藤田多作ノ鑑定ハ當裁判所ノ措信セサル處ナリ又甲第二號證ニ依レハ本件被收用地ノ附近ナル役行者町  
三百七十三番地及ヒ同所三百七十一番地カ競賣ニ付セラレ明治四十五年一月十三日一坪金百圓餘ノ價格  
ヲ以テ競落シタル事實ヲ認メ得ヘキモ鑑定人藤田多作ノ鑑定ニ依レハ役行者町ハ本件被收用地ニ比シ優  
良ノ地ニシテ其高價ナルコト明カナルニ依リ右競落價格ハ本件被收用地ノ價格ヲ定ムルノ標準ト爲スニ足  
ラス又證人吉野久和ハ明治四十四年五月八日仁壽生命保險會社ヘ東洞院姉小路下ル箇所ノ宅地四百九十  
六坪四合一勺ヲ代金七萬圓ニ又同月十二日其地續キ八十坪三合五勺壹萬千貳百四拾九圓ニテ遷信省ヘ賣  
却シタル旨證言スルヲ以テ該地所ハ一坪約百四拾圓内外ノ價格ニ相當スレトモ同所ハ京都市ノ中樞ヲ占  
メ商業殷盛ニシテ本件被收用地ニ勝ルコト數等ナルハ當裁判所ニ於テ顯著ナル事實ニ屬スルヲ以テ該價  
格ハ採テ以テ本件價格判決ノ資料ト爲シ難ク其他原告訴訟代理人援用ノ甲第三號證ノ一同四號證及證  
人大西彌次郎ノ供述ハ未タ以テ前示認定ヲ覆スニ足ラス而シテ乙第三六號證ニ依レハ本件被收用地附近  
ノ地所カ明治四十三年九月以降明治四十四年七月マテノ間ニ於テ被告カ一坪金四拾五圓乃至四拾八圓ニ  
テ買收シタル事實ヲ認メ得ルモ右賣買ハ本件收用地同シク被告カ道路擴張ノ必要上買得シタルモノニシ

テ賣主タル被買收者ニ於テ訴訟ヲ爲スヲ好マサル爲メ之ニ甘シタル事實アリ得ヘキヲ以テ右乙號證ニ依  
ル買收價格ハ本件被收用地ノ價格ヲ律スルノ資料ト爲シ難ク又乙第七號證ニ依レハ收用審査會ニ於ケル  
土地ノ補償額ト其地上物件移轉料トヲ合算スルトキハ被收用地ノ内武村市左衛門ノ五百八十一番地ノ宅  
地ハ一坪金六拾壹圓六拾六錢小形甚三良ノ宅地ハ一坪八拾圓貳拾壹錢岩井德治郎ノ宅地ハ一坪七拾七圓  
參拾壹錢ニ相當スルヲ以テ被告訴訟代理人ハ移轉料ニ於テ多額ノ支拂ヲ爲シタルニ依リ收用審査會ノ本  
件補償額決定ハ至當ナリト主張スルモ移轉料ハ地上物件ノ多寡并ニ移轉ノ難易ニ依リ定マル土地ノ損失  
補償金ハ土地ノ價格ニ依リ定マルヘキモノナルハ移轉料ト損失補償額トハ何等關係ヲ有セサルニ依リ移  
轉料ノ多額ナル理由トシテ損失補償金ヲ減額スルヲ得サルヤ論ヲ俟タル處ナレハ右乙第七號各證モ  
亦以テ前示認定ヲ覆スノ資料ト爲スニ足ラス左レハ本件各被收用地ハ前示認定ノ價格ニ依リ各坪數ニ應  
シ算出シタル金額ヲ以テ其補償金額ナリト認定セサルヘカラス從ツテ被告ハ該補償金額ヨリ既ニ原告ニ  
對シ支拂ヲ爲シタル收用審査會ノ裁決額ヲ控除シ其殘額ヲ支拂フノ義務アルカ故ニ原告ノ請求中前示認  
定ノ補償金額ノ確認并ニ其未拂殘額ノ支拂ヲ求ムル部分ハ之ヲ認容シ其他ノ部分ハ之ヲ排斥スヘキモノ  
トス仍テ訴訟費用ニ付民事訴訟法第七十三條第一項ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

京都地方裁判所民事部

裁判長判事 樫木 八郎  
判事 清水 正一  
判事 池内 善雄

右正本也



大正二年十一月二十五日  
判決正本

京都地方裁判所民事部

裁判所書記

長尾信

京都市下京區松原通烏丸東入ル  
俊成町四百三十七番地

原告

山田彌三郎

右訴訟代理人辯護士

砂川雄峻

被告

京都市

右代表者市長

井上密

右訴訟代理人辯護士

堀田康人

同

谷口文次郎

同

渡邊昭

同

三幣保

右當事者間明治四十四年(第三三五號)土地收用補償金殘額請求事件ニ付キ當裁判所ハ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告ハ原告ニ對シ金參千百五拾四圓七錢ニ明治四十四年十月一日ヨリ本件判決執行濟ニ至ルマテ年五分ノ損害利息ヲ附シ支拂フヘシ

原告ノ其餘ノ請求ハ之ヲ棄却ス

訴訟費用ハ之ニ二分シ其一ヲ原告ノ負擔トシ他ノ一ヲ被告ノ負擔トス

事 實

原告代理人ハ一定ノ申立トシテ被告ハ原告ニ對シ金壹萬四千參百七拾圓六拾錢ニ明治四十四年十月一日ヨリ本件判決執行濟ニ至ルマテ年五分ノ損害金ヲ加算シ支拂フヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決ヲ求メ其請求原因トシテ被告ハ道路擴築起業者トシテ原告所有ノ(一)京都市下京區松原烏丸東入俊成町四百三十七番地宅地四十二坪五合八勺(二)同市同區烏丸松原下ル五條烏丸町三百九十五番地宅地ノ内二十八坪六合一勺(三)同宅地ノ内二十坪一合二勺ノ地所ヲ買收セントシ原告ニ對シ協議賣買ノ申込ヲ爲シタルモ其協議調ハサリシ爲メ京都府收用審査會ニ之カ審査ヲ求メタル處同審査會ハ明治四十四年七月十八日(一)宅地ヲ貳千六百參拾九圓九拾六錢(二)宅地ヲ壹千七百七拾參圓八拾貳錢(以上一坪六拾貳圓ノ割)(三)宅地ヲ九百五圓四拾錢(一坪四拾五圓ノ割)收用時期ヲ同年九月三十日ト決定シタリ然ルニ收用當時ニ於ケル附近ノ地所ハ右裁決額ニ比シ著シク高價ナルヲ以テ右(一)ノ地所ハ一坪貳百貳拾圓(三)ノ地所ハ一坪金貳百圓ノ價額ヲ相當トスヘク從ツテ此價額ニ依リ算出シタル金額ト既ニ受領シタル裁決額トノ差額金壹萬四千參百七拾圓六拾錢并ニ支拂延滞ニ基ク損害金請求ニ及ヒタリト陳述シ立證トシテ證人中野幸二郎高橋友七遠藤九右衛門吉川利吉石正辰次郎江島六兵衛ノ訊問及鑑定ノ申請ヲ爲シ乙第一二三六號證ノ成立ノミヲ認メ同第四十五號ノ證ヲ否認シタリ

被告代理人ハ原告ノ請求ヲ棄却ス訴訟費用ハ原告ノ負擔トストノ判決ヲ求メ其答辯トシテ原告代理人主張ノ如ク收用審査會ニ於テ其件土地收用ノ裁決及ヒ補償金額ノ決定アリタルコトハ相違ナキモ收用審査



會ハ極メテ周到綿密ナル調査ヲ遂ケタルモノニシテ本件俊成町四百三十七番地ノ東隣地富永太郎所有ノ土地ハ一坪金六拾圓道路ヲ隔テタル眞向ナル相宗榮次郎ノ土地ハ一坪金六拾貳圓齊藤ケマノ土地ハ一坪金六拾參圓又五條鳥丸町三百九十五番地ニ接續スル京都貯藏銀行ノ土地ハ一坪金四拾五圓丸山トモ竹花ツネ石正辰次郎等ノ土地ハ孰レモ一坪金四拾五圓ノ割合ヲ以テ任意ニ而モ最近ニ本件收用ト同一事業ノ爲メ賣買セラレタルニ依ルモ裁決補償額ハ適當ニシテ毫モ批難スヘキモノニ非サルヲ以テ本訴請求ニ應シ難シト陳述シ立證トシテ乙第一號乃至第六號證ヲ提出シタリ

理由

本件土地收用并ニ京都府收用審査會ノ裁決補償金額ニ付テハ當事者間爭ナク且ツ收用時期カ明治四十四年九月三十日ナルコトハ乙第一號證ニ依リ明カナルヲ以テ右補償金額ノ當否ヲ案スルニ俊成町四百三十七番地ニ付テハ鑑定人本郷光治ハ收用當時一坪金八拾五圓乃至百拾圓ノ價額ヲ有シタル旨鑑定シ篠田忠兵衛ハ收用當時ニ於ケル右宅地一坪ノ價額ハ金八拾五圓ニ相當スル旨鑑定スルニ依リ之ヲ綜合參酌シテ右宅地ノ收用時期ニ於ケル價額ハ一坪金九拾五圓ニ相當スルモノト認定スヘク又五條鳥丸町三百九十五番地ニ付テハ鑑定人本郷光治ノ收用時期ニ於ケル該宅地ハ俊成町四百三十七番地ト隣接セルヲ以テ前示認定ノ同宅地ノ價額トヲ斟酌シ收用時期ニ於ケル右二十坪一合二勺ノ價額ハ一坪金八拾五圓ニ相當スルモノト認定シ同宅地ノ東端二十八坪六合一勺ハ前示俊成町四百三十七番地ト地盤ヲ同フスルノミナラス同一構内ト爲シ合併使用シアリシコトハ乙第一號證ニ徵シ疑ナキ事實ナルヲ以テ此部分ハ右俊成町ノ宅地ト經濟上同一ノ効果ヲ收メ得ヘキカ故ニ其價額モ亦同一ト認ムルヲ相當トスヘキニ依リ本件收用時期ニ

於ケル右二十八坪六合一勺ノ價額ハ一坪金九拾五圓ニ相當スルモノト認定セサルヲ得ス鑑定人藤田多作ノ鑑定ハ當裁判所ノ措信セサル處ナリ而シテ證人市川利吉ノ證言ニ依レハ宮本儀助ハ明治三十五年頃松原通鳥丸東入因幡堂町所在ノ宅地十七坪五合八勺ヲ地上ノ建物ト共ニ一坪金百圓ノ割合ニテ又明治三十九年四月中本件被收用地ト二十五間ヲ隔ツル吉水町ノ宅地三十五坪ト俊成町ノ宅地四十七坪二合七勺并ニ其地上ノ建物トヲ合シテ平均金百七拾圓ニテ買入レタル事明ニシテ鑑定人篠田忠兵衛ノ鑑定ニ依レハ本件收用時期ニ在テハ右賣買當時ニ比シ因幡堂町ノ宅地ハ二倍以上吉水町ノ宅地ハ四割弱俊成町ノ宅地ハ六割ノ騰貴ヲ來シタル事實ヲ認メ得ヘキモ該賣買格ハ其地上ノ建物ヲ包含スルカ故ニ宅地ノミノ價格ヲ知ルニ由ナキノミナラス乙第四號證ニ依レハ右賣買地ハ何レモ買主宮本儀助カ從來ヨリ所有セシ宅地ノ隣接地ナルコト明カナルト鑑定人本郷光治篠田忠兵衛ノ鑑定トヲ對照スル時ハ地續ノ關係上格外高價ニテ取引シタルモノナルコトヲ推知シ得ヘキヲ以テ右賣買價格ハ本件被收用地ノ價格ヲ認定スルノ資料ト爲スニ足ラス又證人中野幸二郎ノ證言ニ徵スレハ鳥丸松原上ル藥師前町即チ本件被收用地ノ五條鳥丸町三百九十五番地ノ向側ニ相當スル宅地六十一坪九合五勺ヲ明治四十二年九月中代金壹萬圓(一坪金百六拾壹圓餘)ニテ京都銀行ニ賣却シタル事實ヲ認メ得ヘキ同證言ニ依レハ京都銀行ハ宅地狹隘ナリシ爲メ之ニ接續セル右宅地ノ賣却方ヲ懇請シタルコト明カナルヲ以テ特ニ高價ニ買取リタルモノナルコト疑ナキカ故ニ採テ以テ本件土地ノ收用價格ヲ定ムルノ標準ト爲スニ足ラス其他證人高橋友七遠藤九右衛門石正辰次郎江島六兵衛ノ證言ハ孰レモ前示認定ヲ覆スノ資料ト爲スニ足ラス然リ而シテ乙第三號證ニ依レハ本件俊成町四百三十七番地ノ隣接地カ一坪金六拾圓乃至六拾五圓又五條鳥丸町三百九十五番地ノ隣接地カ一坪四拾五圓ヲ以テ被告カ本件收用ト同シク道路擴張ノ爲メ買收シタル事蹟ヲ認メ得ヘキニ依



リ該價格ハ本件收用補償ニ對スル適切ノ價格ナルカ如シト雖モ證人石正辰次郎江島六兵衛ノ供述ニ依ルトキハ一般被買收者ノ事公益ニ關スルヲ以テ強テ被告申出ノ價格ニ異議ヲ留メス安價ナル買收價額ニ甘シタル事實ヲ窺フニ足ルヲ以テ右乙號證ハ本件補償金額算定ノ標準ト爲スヲ得ヌ又乙第六號證ハ本件收用隣地ノ明治四十年以降四十二年ニ涉ル土地所有權移轉登記申請書ニシテ其價額ハ一坪金貳拾七圓六拾八錢乃至四拾六圓五拾壹錢ナルモ登記ノ價格ハ必スシモ實際ノ賣買價格ヲ表示スルモノト認メ難キヲ以テ同證モ亦本件收用地ノ價額ヲ判定スルノ資料ト爲スニ足ラス左レハ被告ハ前示認定ノ價額ニ依リ坪數ニ應シ算出シタル金額八千四百七拾參圓貳拾五錢ヨリ既ニ支拂ヲ受ケタル裁決補償金五千參百拾九圓拾八錢ヲ控除シ其殘額參千五百五拾四圓七錢ヲ支拂フヘキ義務アルト同時ニ本件被收用地ノ所有權ハ收用時期ニ於テ起業者之ヲ取得シ右保證金ハ收用時期マテニ拂渡ササルヘカラスナルヲ以テ被告ハ收用時期ノ翌日タル明治四十四年十月一日ヨリ前示殘額金ニ對シ法定利息ニ相當スル年五分ノ損害金ヲ支拂フヘキ義務アルト謂ハサルヘカラス仍テ原告請求中此部分ハ之ヲ認容シ其餘ノ部分ハ理由ナキモノト認メ民事訴訟法第七十三條第一項ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

京都地方裁判所民事部

裁判長判事 榎木 八郎  
判事 清水 正一  
判事 池内 善雄

京都地方裁判所民事部

右正本也

大正二年十一月二十五日  
判決正本

裁判所書記 長尾 信

京都市下京區祇園町北側二百三十九番地  
原告 大塚 市松  
右訴訟代理人辯護士 砂川 雄峻  
被告 京 都 市  
右代表者市長 井 上 密  
右訴訟代理人辯護士 三 幣 保  
同 堀 田 康 人  
同 谷 口 文 次 郎  
同 渡 邊 昭

主 文

右當事者間明治四十四年(第二四八號)土地收用補償金殘額請求事件ニ付當裁判所ハ判所スルコト左ノ如シ  
被告ハ原告ニ對シ金貳千八百貳拾圓五拾五錢ヲ支拂フ可シ  
原告其餘ノ請求ハ之ヲ棄却ス  
訴訟費用ハ之ヲ二分シ其一分ヲ原告ノ負擔トシ其餘ヲ被告ノ負擔トス

事 實



原告訴訟代理人ハ被告ハ原告ニ對シ金六千參百八拾參圓參拾五錢ヲ支拂フ可シ訴訟費用ハ被告ノ負擔ト  
 ストノ判決ヲ求メ其請求原因トシテ被告京都市ハ同市内ニ於ケル道路ヲ擴築スル爲メ原告ノ所有ニ係ル  
 京都市四條通大和大路東入祇園町北側二百三十九番地宅地三十六坪一合八勺内二十九坪六合九勺ヲ收用  
 セント欲シ其損失補償トシテ右土地ニ對シ金貳千五百貳拾參圓六拾五錢ヲ支拂ハシコトヲ申出テタルモ  
 原告ハ其金額少ナキノ故ヲ以テ之ニ應セザリシ處被告ハ收用審査會ノ裁決ヲ仰キタルニ同會ハ被告ノ前  
 記申出額ヲ相當ト裁決シ收用ノ時期ヲ明治四十四年九月三十日ト定メタリ然レトモ右土地ノ價額ハ金八  
 千九百七圓ヲ以テ相當トスルカ故ニ原告カ既ニ被告ヨリ受取リタル金貳千五百貳拾參圓六拾五錢ヲ差引  
 キタル殘額金六千參百八拾參圓參拾五錢ノ支拂ヲ求ムル爲メ本訴ニ及ヒタリト云フニ在リテ立證トシテ  
 甲第一號證ノ一乃至三ヲ提出シ證人金山半次郎柚木角衛川瀬新太郎西村七三郎大西豐三郎及奥井康三郎  
 ノ各喚問ヲ求メ檢證及ヒ鑑定ノ申請ヲ爲シ乙第一號證ヲ認メ其餘ノ乙各號證ノ成立ノミヲ認メタリ  
 被告訴訟代理人ハ原告ノ請求ハ之ヲ棄却ス訴訟費用ハ原告ノ負擔トストノ判決ヲ求メ答辯トシテ被告京  
 都市カ其道路擴築ニ必要ナル原告所有ノ京都市下京區四條通大和大路東入祇園町北側二百三十九番宅地  
 三十六坪一合八勺ノ内二十九坪六合九勺ヲ買收セントシタル處協議調ハサリシ爲メ被告ヨリ京都府土地  
 收用審査會ノ裁決ヲ求メタル事實及同會カ被告ノ申立テ正當ト認メ右土地ニ對スル補償金チ一坪金八拾  
 五圓ノ割合ニテ合計金貳千五百貳拾參圓六拾五錢ト裁決シ收用ノ時期ヲ明治四十四年九月三十日ト定メ  
 タル事實ハ原告主張ノ如クニシテ同會ハ慎重ナル調査ヲ遂ケ且ツ隣地ノ買收價額ヲ參酌シテ右補償金額  
 ヲ査定シタルモノナレハ原告カ之ニ不服ヲ唱ヘ本訴ヲ提起シテ過大ノ要求ヲ爲スハ謂ハレナキ請求ナリ  
 ト陳述シ立證トシテ乙第一乃至第七號證ヲ提出シ甲號證ノ成立ノミヲ認メタリ

理由

被告京都市カ同市ニ於ケル道路ヲ擴築スルニ付キ原告所有ノ同市下京區四條通大和大路東入祇園町北側  
 二百三十九番地宅地三十六坪一合八勺ノ内二十九坪六合八勺チ一坪八拾五圓ノ割合ニテ合計金貳千五百  
 貳拾參圓六拾五錢ヲ以テ買收セントコトヲ申出テタルモ協議調ハサリシ爲メ被告ヨリ收用審査會ノ裁決ヲ  
 求メタル處同會ハ被告ノ申出額ヲ相當ト認メ明治四十四年九月二十日ヲ以テ收用時期ト定メタルコトハ  
 當事者間爭ナキ所ニシテ本訴ノ爭點ハ右補償金額ノ相當ナリヤ否ヤニ在リ然リ而シテ土地收用ノ場合ニ  
 於テハ其目的物ノ所有權ハ收用審査會ノ定メタル收用時期ニ於テ起業者之ヲ取得スルモノナルコトハ土  
 地收用法第六十三條ノ明規スル所ナレハ起業者ノ被收用者ニ補償スヘキ金額モ亦此時ニ於ケル目的物ノ  
 價額ナリト云ハサル可ラス依テ本件土地ノ收用時期タル前記明治四十四年九月三十日ニ於ケル該土地ノ  
 價額如何ヲ審究スルニ凡物ノ價額ハ需要供給ノ法則ニ依リ定マルヘキモノナレハ或土地ノ價額ヲ測定ス  
 ルニ際リテハ需要供給ノ一現象タル隣地ノ賣買價額モ亦之ヲ參酌スヘキモノナルコト勿論ナリト雖モ右  
 賣買價額タルヤ特別ノ事情ノ存スルカ爲メ需要供給ノ法則ニ依リ定マルヘキ一定ノ價額ト相一致セサル  
 コトアルヘキハ容易ニ推知シ得ヘキ所ナルニヨリ此點ヲモ顧慮セサル可ラサルコト固ヨリ當然ナリトス  
 仍テ係争地附近ニ於ケル賣買ノ實例トシテ本件ハ表ハレタルモノニ付キ觀察スルニ一證人西村七三郎ノ  
 供述スル所ニ依レハ大和大路四條角ニ現存スル大阪貯蓄銀行京都支店ノ敷地ハ同銀行カ明治三十五年ニ  
 内七十一坪七合四勺チ金壹萬八千八百拾八圓五拾錢ニテ河端久七ヨリ内七坪八合チ金千七百七拾圓ニテ  
 松本小三郎ヨリ内十九坪七合二勺チ金四千九百參拾圓ニテ西川シスヨリ各買取リタルモノナルコトヲ認  
 メ得ヘク而シテ本件收用ノ時期ニ於ケル右土地ノ價額ハ該賣買當時ニ於ケル價額ニ比シ約五割チ増加セ



ルモノナルコトハ鑑定人本郷光治及篠田忠兵衛ノ各鑑定ノ示ス所ニシテ從テ右賣買ノ代金ヲ收用時期ニ於ケル價額ニ換算スルトキハ一坪金參百數拾圓トナルト雖モ該敷地ハ同銀行ニ於テ必ス之ヲ買受ケサルヘカラサル事情アリタルヨリ斯カル高價ヲ以テ買取リタルモノナルコトモ亦同證人ノ證言スル所ナレハ右價額ヲ以テ直ニ係争地ノ價額ノ標準ト爲スニ足ラサルコト極メテ明白ナリ(二)證人大西豊三郎ノ供述ニ依レハ同人ハ明治四十四年三月石井アイヨリ祇園町繩手東南角五百八十七番地十八坪五合五勺ノ土地ヲ地上建物ト共ニ一坪四百貳拾圓ノ割合ニテ買取リタルコト并ニ該建物ノ價額ハ僅ニ參四百圓ニ過キサルモノナルコトヲ認メ得ヘク之ヲ前示鑑定人ノ鑑定ヲ標準トシテ本件收用時期ニ於ケル價額ニ換算スルトキハ右土地ノ價額ハ一坪金四百圓ヲ下ラサルコトナリ前記大阪貯蓄銀行京都支店ノ敷地價額ニ比シ尙ホ高價トナルヘキ筋合ナレハ既ニ右銀行ノ敷地ノ價額カ係争地ノ價額ヲ判定スル標準トナラサルコトヲ前示ノ如クナル以上是亦該價額算定ノ資料トスルノ價値ナキモノナルコトハ勿論ナリトス(三)證人金山半治郎ノ證言スル所ニ依レハ同人ハ明治四十三年十二月頃大和大路四條下ル東側ノ土地ヲ一坪金百九拾圓ニテ買取リタルモノナルコト并ニ右土地ニ比スレハ四條通ノ土地カ幾分高價ナルコトヲ認メ得ヘク而シテ前顯各鑑定人ノ鑑定ニ依レハ本件收用ノ時期ニ於ケル右土地ノ價額ハ該賣買當時ノ價額ニ比シ約一割ヲ增加セルコトヲ認メ得ルモ同證人カ投機的ノ考ヲ以テ之ヲ買取リタルモノナルコトモ亦其證言スル所ナルニヨリ是亦必スシモ本件係争地ノ價額ヲ算定スルノ根據ト爲スニ適切ナリト云フヲ得サルナリ依テ當裁判所ハ係争地ノ收用時期ニ於ケル價額ハ前顯鑑定人本郷光治ノ一坪金貳百圓以上貳百五拾圓以下ナル旨鑑定人篠田忠兵衛ノ一坪金貳百圓ナル旨ノ各鑑定ニ基キ之ニ證人奥井康三郎ノ自分ハ大塚ノ東隣ノ土地ヲ坪八拾參圓ニテ京都市ヘ買收セラレタルカ安價ナリトハ思ヒシモ公共事業ノコトナレハ甘シクシテ之

ヲ賣却シタルモノナル旨ノ供述ト檢證ノ結果ト參酌シテ一坪金百八拾圓ノ割合ニテ合許金五千參百四拾四圓貳拾錢ナリト認定ス鑑定人藤田多作ノ鑑定ノ結果ハ當裁判所之ヲ採用セス又證人楠木角衛ノ四條通大和大路角巡查派出所ノ敷地ヲ有志者カ京都市ニ寄附スル目的ヲ以テ明治四十四年十一月頃一坪參百貳拾圓ニテ買取リタリト聞知セル旨證人川瀬新太郎ノ自分ハ大和大路四條東入北側ノ土地ヲ移轉料ヲ合セ百拾圓以上百貳拾圓以内ニテ買收セラレタルカ右價額ハ相當ト思ヒ之ニ應シタル旨ノ各證言ハ就レモ右認定價額ヲ不相當ナリト認メシムニ足ラス又乙第二、三、六、七號證ハ係争地附近ニ於テ被告ノ買收シタル土地ノ所有者賣買價額及移轉費等ヲ示スニ止マリ倒底右認定ヲ覆シ難ク乙第四號證ハ係争地附近ノ土地ニ關スル所有權移轉登記申請書ナルモノニ記載セラレタル價額ハ眞實ノ賣買價額タルヲ必セサルヲ以テ是亦右認定ヲ妨クルコトナク又乙第五號證ハ收用審査會ノ裁決書ニシテ固ヨリ右認定ニ影響ヲ及ボスヘキモノニアラサルナク果シテ然ラハ本件係争地ニ對シ被告ノ支拂フ可キ補償金額ハ前示ノ如ク金五千參百四拾四圓貳拾錢ナルヲ以テ曩ニ原告カ被告ヨリ内金貳千五百貳拾參圓六拾五錢ヲ受領シタルモノナルコト當事者間争ナキ以上之ヲ控除シタル殘額金貳千八百貳拾圓五拾五錢ハ被告ニ於テ之ヲ原告ニ支拂フ可キ義務アルモノニ超過スル原告ノ請求ハ失當ナリト云ハサル可カラス仍テ訴訟費用ニ付キ民事訴訟法第七十三條第一項ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

京都地方裁判所民事部

裁判長判事 榎木 八郎  
判事 清水 正一  
判事 池内 善雄



右正本也

大正二年十一月二十一日

判決正本

京都府地方裁判所

裁判所書記 秋月管二郎

京都市下京區烏丸通松原上ル因幡堂町二十四番戶

原告 西村祐次郎

右訴訟代理人辯護士 砂川雄峻

被告 京都市

右代表者 井上密

京都市長法學博士 幣保

右訴訟代理人辯護士 堀田康人

同 堀田康人

同 谷口文次郎

同 渡邊昭

同 渡邊昭

右當事者間明治四十四年(第二三三七號)土地收用補償金殘額請求事件ニ付判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告ハ原告ニ對シ金千九百八拾五圓拾參錢ニ明治四十四年十月一日ヨリ本判決執行濟ニ至ル迄年五分ノ割ノ損害金ヲ付シテ支拂スヘシ  
原告ノ其餘ノ請求ハ之ヲ棄却ス

訴訟費用ハ之ヲ二分シ各一分ヲ負擔セシム

事 實

原告訴訟代理人ハ被告ハ原告ニ對シ金八千參百七拾五圓ニ明治四十四年十月一日ヨリ本判決執行濟ニ至ル迄年五分ノ割合ノ損害金ヲ付シテ支拂フヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決ヲ求メ其請求原因トシテ被告ハ道路擴張ニ要スル原告所有ノ京都市下京區烏丸通高辻下ル因幡堂町六百七十九番七百十八番ノ一合地六十坪六勺ノ内五十二坪一合一勺ノ土地ヲ金貳千九百七拾圓貳拾七錢ニテ收用スルニ當リ原告ハ該收用地ノ損失補償トシテ金壹萬四百貳拾圓殘地損失補償トシテ金九百貳拾四圓ヲ請求シタレトモ協議不調ニ了リ竟ニ被告ハ京都土地收用審査會ニ之カ裁決ヲ仰キタル處同審査會ニ於テ審査ノ結果被告ノ主張ノ如ク右土地ヲ收用シ一坪金五拾七圓合計貳千九百七拾圓貳拾七錢ヲ相當補償額ト定メ其收用時期ヲ明治四十四年九月三十日ト爲ス旨ノ裁決アリタレトモ該決定ノ額頗ル低廉ナルノミナラス收用殘地ノ蒙ル損失ニツキ何等ノ決定ヲモ與ヘサルニヨリ本訴ニ於テ之カ増加額ヲ請求スル所以ナル旨陳述シ立證トシテ甲第一號乃至第三號證ノ六ヲ提出シ證人津田卯助ノ喚問ヲ求メ鑑定及檢證ノ申請ヲ爲シ乙號各證ノ成立ノミヲ認メタリ被告訴訟代理人ハ原告ノ請求ヲ棄却ス訴訟費用ハ原告ノ負擔トストノ判決ヲ求メ其答辯トシテ被告京都市ハ道路擴張ノ爲メニ原告所有ノ土地ヲ收用スルノ要アリ京都府土地收用審査會ニ於テ裁決ノ結果原告主張ノ如キ決定アリタルニ相違ナキモ第一原告ノ請求中土地收用區域外ノ殘地ノ補償ニ付テハ原告カ審査會ニ裁決ヲ求メタル事蹟ナク本訴ニ於テ始メテ之カ請求ヲ爲スモノナレハ本訴ハ通常裁判所ニ出訴シ得サル不合法ノ訴ナリ蓋シ土地收用法第八十二條ニ依レハ被收用者ハ土地收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對スル部分即チ數量ノ點ニ付テノミ司法裁判所ニ出訴シ得ヘク收用審



查會ニ於テ決定セサル事項ニ付テハ同法第八十一條ニ從ヒ唯リ訴願又ハ行政訴訟ニ依ルヘク司法裁判所ニ不服ヲ唱ヘ得サルモノナレハナリ第二原告代理人ハ土地收用審査會ノ補償裁決額カ低廉ニ失セリトナシ一坪貳百圓ノ價值アリト主張スレトモ補償額ハ諸般ノ材料ニヨリ綿密且ツ慎重ナル調査ヲ遂ケタルモノニシテ之ヲ近傍類地ニ照スルニ津田卯助五島伊太郎藤野梅次郎等所有ノ土地カ一坪五拾五圓ニテ又係争地ト少クトモ同等ナルカ又ハ稍々優良ナル京都銀行ノ土地カ一坪五拾七圓若クハ五拾六圓ヲ以テ收用セラレタル事實ニ徴スルモ本件係争地ノ補償額ノ相當ナルコト明白ニシテ此裁決額ニ超ユル原告ノ本訴請求ハ當テ失スル旨陳述シ乙第一乃至第三號ノ十五ヲ提出シ證據保全ノ記錄取寄セテ申請シ甲號各證ノ成立ノミヲ認メタリ

理由

京都府土地收用審査會カ起業者タル被告ノ申請ニヨリ道路擴築ノタメ原告所有ノ京都市上京區烏丸通高辻下ル因幡堂町六百七十九番七百十八番一合地六十坪九合六勺ノ内五十二坪一合一勺ヲ被告主張ノ如ク金貳千九百七拾圓貳拾七錢ノ損失補償額ヲ以テ收用スヘキ旨明治四十四年七月十八日裁決ヲ爲シ尙ホ其收用時期ヲ同年九月三十日ト決定シタルコトハ當事者間争ナキ所トス本件主要ノ争點ハ第一本訴ニ於テ殘地ノ損失補償額ノ請求ヲ爲シ得ストノ無訴權ノ妨訴抗辯ハ正當ナリヤ第二收用土地ノ損失補償額ノ當如何第三假リニ殘地ノ補償ニ付キ訴權アリトセハ其補償額如何ニアリテ仍テ先ツ

第一無訴權ノ妨訴抗辯ニ付キ案スルニ土地收用法第八十二條ハ廣ク收用審査會ノ裁決中補償額ノ決定ニ對シ不服アルモノハ通常裁判所ニ出訴スルヲ得ヘキ旨ヲ規定スルニ止マリ收用審査會ニ於テ裁決セザリシ殘地補償額ニ付キテハ直ニ司法裁判所ノ出訴スルヲ得スシテ訴願又ハ行政訴訟ニ依ラサルヘカラサル

旨ノ制限の趣旨ノ徴スヘキモノナキヲ以テ尙モ同一ノ收用ニ基因スル損失ナル以上ハ裁決以外ノ殘地補償ニ付キテモ裁決ニカカル收用土地ニ對スル損失補償額ノ増加請求ト共ニ司法裁判所ニ出訴スルヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス若シ然ラスシテ收用審査會ノ裁決以外ノ事項ニ對スル損失補償ニ付キテハ一般ニ通常裁判所ニ出訴スルヲ得サルモノト爲スニ於テハ同一ノ收用ニ基因スル損失補償ニシテハ通常裁判所ニ於テ審判スルヲ得ルニ拘ラス他ハ之ヲ許サストノ不權衡ナル結果ヲ默認セサルヲ得サルニ至リ收用法第八十一條第八十二條等ノ注意ニ背反スル結果ヲ生スルニ至ルヘシ從テ原告カ本訴ニ於テ殘地補償ヲ求ムルヲ妨ケサルモノト解スルコト當然ナレハ此點ニ關スル被告代理人ノ抗辯ハ採用セズ

第二收用土地ニ對スル損失補償額ノ當否ニ付キ案スルニ土地ヲ收用スルトキハ收用時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得スヘシ又起業者ハ收用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡ヲ爲ササルヘカラサルコトハ土地收用法六十條六十三條ノ明規スル所ナルヲ以テ結局收用土地ノ補償價格ハ收用時期ニ於ケル其土地ノ相當價格ナリト謂ハサルヘカラス而シテ本件收用時期ノ明治四十四年九月三十日ナルコトハ争ナキ所ナルヲ以テ右時期ニ於ケル本件土地ノ相當價格ニ付キ案スルニ原告代理人ハ收用審査會ノ補償額ハ寡少ニ失ト主張シ被告代理人ハ之ヲ相當ナリト抗爭スレトモ當裁判所ハ本件土地ニ對スル鑑定人本郷光治和田辨之助ノ鑑定甲二號證ノ一二記載ノ本件附近ノ土地ニ對スル鑑定并ニ檢證ノ結果ヲ綜合シ本件收用時期ニ於ケル本件土地ノ價格ハ一坪九拾圓ヲ以テ相當ナリト認定ス而シテ鑑定人藤田多作ノ鑑定并ニ乙第六號證ノ記載ハ當裁判所ノ措信セサル所ナリ原告代理人ハ甲三號各證ニ依リ本件土地ノ價格ヲ證セントスルモ同數面記載賣買ハ同證自體ニヨリ明ナル如ク各特殊ノ事情ニ基因スル賣買ニシテ之ニ因リ直ニ本件土地ノ相當價格ヲ對スルノ資料ト爲スヲ得サルノミナラス當該當事者ノ意思如何ニ因リ定マルヘキ賣買代金ハ必



スシモ相當代價ト符合スルモノニ非ルヲ以テ右各證ハ以テ本件土地ノ價格ヲ判定スルニ足ラヌ又被告代理人ハ乙二號ノ一乃至及乙七號ノ一乃至五ニヨリ本件附近ノ土地ヲ京都市カ任意ニ買得シタル價格ヲ舉ケテ本件收用審査會ノ裁決ノ相當ナルコトヲ證セントスルモ是等ノ各證記載ノ任意賣買中ニハ所有權者タル賣主ニ於テ訴訟爲スヲ好マサルカ爲メ右價格ニ甘シタルモノノ存スルコトハ證人津田卯助ノ供述ニヨリ推知スルニ難カラサルヲ以テ同證ニヨリ本件土地ノ相當價格ヲ判定スルニ足ラス尙ホ被告代理人ハ乙三號ノ一乃至五ヲ以テ本件收用價格ノ相當ナルヲ證セントスルモ是等各證ハ何レモ本件附近ノ土地ノ所有權移轉登記申請書ニ記載ノ賣買金額ハ必スシモ實際ノ賣買金額ニ符合スルモノニ非サルノミナラス是等ノ賣買ハ何レモ明治四十年一月乃至同四十三年一月迄ノ賣買代金ナルコトハ同證自體ニヨリ明ニシテ又同四十三年以降ハ京都市ニ於ケル地價變動甚シカリシコトハ當裁判所ニ顯著ナル所ナレハ旁右登記申請書ニ記載ノ賣買價格ハ以テ本件土地ノ相當價格ヲ判定スルニ足ラサルヤ明ナリ而シテ當裁判所カ相當ト認ムル前示一坪九拾圓ノ價格ニ基キ本件收用地五十二坪一合一勺ノ價格ヲ積算スルトキハ本件土地ノ收用補償價格ハ金四千六百八拾九圓九拾錢トナルヘキヲ以テ右金額ヨリ曩ニ被告カ收用審査會ノ裁決ニ基キ原告ニ支拂ヒタル補償金貳千九百七拾圓貳拾七錢ヲ控除シタル殘額金壹千七百拾九圓六拾參錢ハ被告カ本件土地ニ對スル收用補償不足金トシテ原告ニ拂渡スヘキ義務アルモノトス

第三收用殘地ノ損失ニ付案スレニ土地收用ノ結果告件カ僅ニ長四間四分奥行二間七寸坪數八坪八合五勺ヲ殘スニ過キサルトハ被告ノ爭ハサル所ナレ而シテ該殘地ノ分割前ニ比シ著シク其價格ヲ減少スルコトハ鑑定人本郷光治和田辨之助ノ鑑定ニ徵シ明ナル右殘地カ收用ノ結果道路ニ面スルニ至リ便益ヲ得タル事實モ亦檢證ノ結果認メ得ヘキヲ以テ當裁判所ハ鑑定人本郷光治和田辨之助ノ鑑定及ヒ檢證ノ結果ヲ

綜合シ本件收用ニ因リ本件土地ノ殘地カ蒙リタル收用時期ニ於ケル損失額ハ一坪參拾圓ヲ相當ナリト認ム而シテ右殘地ノ坪數ハ八坪八合五勺ナルヲ以テ右一坪ノ損失額ニヨリ積算スルトキハ本件殘地カ收用ニヨリ蒙リタル收用時期ニ於ケル損失ハ金貳百六拾五圓五拾錢ニシテ右ハ被告カ原告ニ拂渡スヘキ義務アルヤ明ナリ而シテ土地ノ所有權ハ收用ノ時期ニ於テ起業者之ヲ取得シ其補償金ハ收用時期迄ニ拂渡サレサルヘカラサルモノナルヲ以テ本件ニ於テハ被告ハ收用時期ノ翌日タル明治四十四年十月一日ヨリ法定利息ニ相當スル損害金ヲ前示金額ニ附加シテ支拂フノ義務アリト謂ハサルヘカラス從テ右ノ範圍内ニ於テ原告ノ請求ヲ認容シ其餘ハ之ヲ排斥スヘキモノトス仍テ訴訟費用ニ付キ民事訴訟法第七十三條第一項ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

京都地方裁判所民事部

裁判長判事 榎 木 八 郎

判 事 清 水 正 一

判 事 池 内 善 雄

右正本也

京都地方裁判所

裁判所書記 長 尾 信

大正二年十一月二十五日

判決正本

京都市下京區東洞院五條下ル萬壽町二番戶

原告 立入 辨治 郎



右訴訟代理人辯護士 砂川 雄峻  
 被告 京 都 市  
 右代表者市長 井 上 密  
 右訴訟代理人辯護士 堀 田 康 人  
 同 三 幣 保  
 同 谷 口 文 次 郎  
 同 波 邊 昭

右當事者間明治四十四年(第三三六號)土地收用補償金殘額請求事件ニ付キ當裁判所ハ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

主 文

被告ハ原告ニ對シ金參千六百拾貳圓九錢ニ明治四十四年十月一日ヨリ判決執行濟ニ至ル迄年五分ノ割合ニ於ケル損害金ヲ附シテ支拂フ可シ原告ノ其餘ノ請求ハ之ヲ棄却ス  
 訴訟費用ハ之ヲ二分シ其一分ヲ原告ノ負擔トシ其餘ヲ被告ノ負擔トス

事 實

原告訴訟代理人ハ被告ハ原告ニ對シ金壹萬貳千九百四拾六圓六拾四錢ニ明治四十四年十月一日ヨリ判決執行濟ニ至ル迄年五分ノ損害金ヲ附シテ支拂フ可シ訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決ヲ求メ其請求原因トシテ被告京都市ハ道路擴張ノ爲原告ノ所有ニ係ル(一)京都市下京區烏丸通七條下ル東蘆小路町七百三十一番地宅地五十坪ノ内二十二坪四合一勺(二)同町七百三十二番地宅地五十坪ノ内二十二坪二合四勺(三)同

町七百三十三番地宅地五十坪ノ内二十二坪一合一勺(四)同市同區四條通寺町東入御旅宮本町二番地宅地十四坪二合七勺ヲ買收セントシ右(一)ノ土地ニ對シ金千七百七拾五圓六拾八錢(二)ノ土地ニ對シ金千六百七拾七圓五拾貳錢(三)ノ土地ニ對シ金千六百拾壹圓七拾六錢(四)ノ土地ニ對シ金貳千四百貳拾五圓九拾錢ヲ支拂ハンコトヲ申出テタルモ原告ハ(一)ノ土地ニ對シ金參千六百拾壹圓五拾錢(二)ノ土地ニ對シ金參千參百參拾六圓(三)ノ土地ニ對シ金參千參百拾八圓(四)ノ土地ニ對シ金八千五百六拾貳圓ヲ要求シタルカ爲メ雙方ノ意見一致セザリシヲ以テ被告ヨリ收用審査會ノ裁決ヲ求メタル處同會ハ被告ノ前記申出額ヲ相當トスル旨ノ裁決ヲ與ヘ收用時期ヲ明治四十四年九月三十日ト定メタル然レトモ右裁決額ハ不當ニシテ原告ノ申出額ハ相當ナルヲ以テ原告ノ申出額ヨリ原告カ既ニ被告ヨリ受取リタル金五千六百參拾圓八拾六錢ヲ控除シタル殘額金壹萬貳千九百四拾六圓六拾四錢及ヒ之ニ對スル損害金ノ支拂ヲ求ムル爲メ本訴ニ及ヒタリト陳述シ立證トシテ甲第一號證ノ一乃至六ヲ提出シ證人若山庄造木村又三郎中島長之助山本源三郎田中利七及ヒ樋口トラノ各喚問ヲ求メ檢證及鑑定ノ申請ヲ爲シ乙第一號證ヲ認メ爾餘ノ乙各號證ハ其成立ノミヲ認ミタリ

被告訴訟代理人ハ原告ノ請求ヲ棄却ス訴訟費用ハ原告ノ負擔トストノ判決ヲ求メ答辯トシテ被告京都市カ道路擴張ノ爲メ必要ナル原告所有ノ京都市下京區烏丸通七條下ル東蘆小路町七百三十一番地宅地二十二坪四合一勺同町七百三十二番地宅地二十二坪二合四勺同町七百三十三番地宅地二十二坪一合一勺合計六十六坪七合七勺及同市同區四條通寺町東入御旅宮本町二番地宅地十四坪二合七勺ヲ買收セントシタルモ協議調ハサリシ爲メ京都市府收用審査會ノ裁決ヲ求メタル事實同及會カ被告ノ申出價額ヲ相當ト認メ前記東蘆小路町ノ宅地三筆合計六十六坪七合七勺ニ對スル補償金額ヲ金參千貳百四圓九拾六錢御旅宮本町



二番地ノ宅地ニ對スル補償金額ヲ金貳千四百貳拾五圓九拾錢ト裁決シ收用時期ヲ明治四十四年九月三十日ト定メタル事實ハ原告主張ノ如シ而シテ右裁決ハ周密ナル調査ノ結果ニ出テ極メテ公平ナルモノニシテ之ヲ隣地ノ買收價額ト比較スル時ハ益其正鵠ヲ得タルモノナルコトヲ知リ得ルモノナレハ右裁決價額ヲ不當ナリトスル原告ノ請求ハ失當ナリト陳述シ立證トシテ乙第一號證第二號證ノ一二第三號證ノ一乃至第六號證ノ一乃至第六號證ノ一乃至第七號證ノ一乃至第七號證ノ一乃至第六ヲ提出シ甲號各證ノ成立ノミヲ認メタリ

理由

被告京都市カ其道路ヲ擴築スルニ際リ原告ノ所有ニ係ル京都市下京區烏丸通七條下ル東蘆小路町七百三十一番地宅地五十坪ノ内二十二坪ノ四合一勺同町七百三十二番地宅地五十坪ノ内二十二坪二合一勺同町七百三十三番地五十坪ノ内二十二坪一合一勺同市同區四條通寺町東入御旅宮本町二番地宅地十四坪二合一勺ヲ買收セントシタル處其協議調ハサリシ爲メ被告ヨリ收用審査會ノ裁決ヲ求メタルニ同會ハ被告ノ申出價額ヲ相當ト認メ右東蘆小路町ノ宅地三筆ニ付テハ三坪金四拾八圓御旅宮本町二番地ノ宅地ニ付テハ一坪金百七拾圓ノ割合ニテ合計金五千六百零拾圓八拾六錢ヲ以テ補償金額トシ明治四十四年九月三十日ヲ收用時期ト定メタル事實ハ當事者間爭ナキ所ニシテ本訴ノ爭點ハ右補償金額ノ相當ナリヤ否ヤニ在リ然リ而シテ土地收用ノ場合ニ於テハ其ノ目的物ノ所有權ハ收用審査會ノ定メタル收用ノ時期ニ於テ起業者之ヲ取得スルモノナル事ハ土地收用法第六十三條ノ明規スル所ナレハ起業者ノ被收用者ニ補償スヘキ金額モ亦此時期ニ於ケル目的物ノ價額ナルコト一點ノ疑ヲ容レサル所ナルヲ以テ本件係争地ノ收用時期タル明治四十四年九月三十日ニ於ケル該土地ノ價格如何ニ付キ審按スルニ前記東蘆小路町ノ土地ニ關

シテハ鑑定人本郷光治ハ一坪金八拾五圓以上百拾圓以下ニシテ三筆地續キノ場合ニハ二割高價ナル旨鑑定スルヲ以テ之ニ檢證ノ結果ヲ參酌シ一坪金八拾五圓ニシテ合計金五千六百七拾五圓四拾五錢ナリト認定シ御旅宮本町二番地ノ土地ニ付テハ鑑定人和田辨之助ハ一坪金貳百四拾圓ナル旨鑑定人本郷光治ハ一坪金貳百五拾圓以上參百圓以下ナル旨各鑑定スルヲ以テ之ニ檢證ノ結果ヲ參酌シ一坪金貳百五拾圓ニシテ合計金參千五百六拾七圓五拾錢ナリト認定ス鑑定人藤田多作及和田辨之助ノ右認定ニ牴觸スル鑑定ハ當裁判所ノ採用セサル所ニシテ證人若山庄造中島辰之助山本源三郎及樋口トラノ各證言ハ未ダ以テ右認定ヲ覆スニ足ラス又乙第三、四、六、七號各證ハ係争地附近ニ於ケル地所ノ買收價額ヲ示スニ止マリ右價額ハ常ニ相當ノモノト云ヒ得サルヲ以テ從テ之等ノ乙各號證ハ前記認定ノ妨ケトナルコトナク乙第五號各證ハ係争地附近ノ土地ニ關スル所有權移轉登記申請書ナルモ之ニ記載セラレアル賣買價額ノ如キハ必スシモ眞實ノ賣買價額ナリト云ヒ得サルヲ以テ是亦右認定ニ影響ヲ及ホスコトナキモノトス然ラハ即チ係争地ニ對スル補償金額ハ右金合計九千貳百四拾貳圓九拾五錢トナルヲ以テ曩ニ原告カ被告ヨリ内金五千六百參拾圓八拾六錢ヲ受取リタルモノナルコト當事者間爭ナキ事實ナル以上之レヲ控除シタル殘額金參千六百拾貳圓九錢ハ被告ハ之ヲ原告ニ支拂フ可キ義務アルモノトス而シテ土地收用ノ場合ニ於テハ起業者ハ收用ノ時期迄ニ補償金ヲ土地所有者ニ拂渡スヘキモノナルコト土地收用法第六十條ノ明規スル所ナルヲ以テ右金額ニ收用時期ノ翌日タル明治四十四年十月一日ヨリ判決執行濟ニ至ル迄年五分ノ損害金ヲ附加シテ支拂フ可キコトヲ求ムル原告ノ請求ハ之ヲ認容スヘキモノ之ニ超過スル部分ハ失當ナルヲ以テ排斥シ訴訟費用ノ負擔ニ付キ民事訴訟法第七十三條第一項ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス



京都地方裁判所民事部

裁判長判事 榎木 八郎

判事 清水 正一

判事 池内 善雄

右正本也

京都地方裁判所

裁判所書記 秋月 管二郎

大正二年十一月二十六日

議長ハ異議ナキヲ以テ原案ニ確定ノ旨ヲ陳告ス

参考 本件ハ控訴落着ノ後ハ市會ニ報告アルヘキモ其ノ時日豫メ圖ルヘカラス而シテ本集ハ筆ヲ大

正二年十二月ニ止ムルヲ以テ此ノ結果ヲ記載スルコト能ハス讀者諒焉

附記

附記

明治四十年三月道路擴築及電氣軌道ニ關シ市會ニ於テ初メテ議定シタルハ烏丸  
東山千本大宮今出川丸太町四條及七條ノ七線ナリトス其後同四十二年十二月ニ  
至リ更ラニ鴨河ノ一線ヲ決議セリ此ノ線路ニ對シハ京都府ヨリ短縮ノ交渉アリ  
タルヲ以テ同四十五年三月再度之ヲ決定シタリ而シテ又大正二年十二月ニ於テ  
東山線徳成橋東ヨリ分岐シテ岡崎公園ニ達スルノ一線ヲ議定シタリ然レトモ此  
ノ兩線ハ最初ノ經畫以外ニ屬スルヲ以テ之ヲ本編ニ收メスシテ參考トテ茲ニ附  
記ス

電氣鐵道鴨河線議事

明治四十二年十二月二十五日

出席議員三十六名

第二百二十六號議案

- 一 京都市營電氣鐵道敷設費豫算ヲ別紙ノ通トシ明治四十二年及同四十三年ノ二ヶ  
年度繼續事業トスルモノトス
  - 二 歳入ハ明治四十年三月六日第百十二號議案市會議定京都市道路擴築并ニ電氣鐵道建設  
費豫算中ヨリ一時繰替ヘ置クモノトス
- 明治四十二年十二月二十三日提出

電氣鐵道鴨河線議事



市營電氣鐵道敷設費豫算表

科目	目	豫算額	附	記
第一款	電氣鐵道敷設費	二六七、二九七・四〇〇		
第一項	電氣鐵道敷設費	二六七、二九七・四〇〇		
第二款	豫備費	一〇、〇〇〇・〇〇〇		
合計		二七七、二九七・四〇〇		

電氣鐵道敷設費支出年度割

一金貳拾七萬七千貳百九拾七圓四拾錢

內譯

金四萬壹千九百圓

金貳拾參萬五千參百九拾七圓四拾錢

電氣鐵道敷設費豫算內譯參考書

金貳拾六萬七千貳百九拾七圓四拾錢

敷設費總額

四十二年度

四十三年度

此譯

名稱	豫算額	備考
軌道費	一二三、六六六・〇〇〇	
電線路費	二七、三〇〇・〇〇〇	
車輛費	九〇、〇〇〇・〇〇〇	
附帶工事費	二七、三三一・四〇〇	
合計	二六七、二九七・四〇〇	

金壹萬圓

以上

電氣鐵道收支豫算書

一金七萬六千九百八拾圓

一金參萬四千九百四拾圓

一收支差引金四萬貳千四拾圓

但シ本計算ノ標準ハ明治四十一年二月十三日特許ヲ受ケタル市營電氣鐵道收支概算書ニヨリ按分比例ヲ以テ算出ス

豫算費

總收入

總支出

純益

市營電氣鐵道收



起業目論見書

- 一 線路
    - 上京區丸太町十番地先ニ起リ現在疏水路ノ西岸ニ沿ヒ下京區宮川筋八丁目四百三十八番地先ニ至ル新設築堤
  - 二 線路哩數
    - 一哩四十二鎮十九節
- 議長ハ異議ナキヲ以テ原案ニ確定ス

電氣鐵道鴨川線議事

明治四十五年三月二十七日

出席議員

第四十七號議案

- 一 明治四十二年十二月二十五日議決第百二十六號議案京都市營電氣鐵道敷設費豫算ヲ別紙ノ通りニ改メ明治四十五年及同四十六年度ノ二ヶ年繼續事業トスルモノトス
- 二 歳入ハ市公債ニ依ルモノトシ追テ議定スルモノトス

電氣鐵道鴨川線議事  
明治四十五年三月二十七日

三 本事業ハ之レヲ特別經濟トナスモノス  
電氣軌道敷設費豫算表

科目	豫算額	附記
第一款 電氣軌道敷設費	一九一、八七〇、〇〇〇	
第一項 電氣軌道敷設費	一九一、八七〇、〇〇〇	
第二款 豫備費	五、〇〇〇、〇〇〇	
合計	一九六、八七〇、〇〇〇	

電氣軌道敷設費支出年度割表

年度	豫算額	摘要
四十五年	七〇、二〇〇、〇〇〇	
四十六年	一二六、六七〇、〇〇〇	
合計	一九六、八七〇、〇〇〇	



電氣軌道敷設費豫算内譯參考書  
一金拾九萬六千八百七拾圓

電氣軌道敷設費

内  
金拾九萬壹千八百七拾圓

此譯

名稱	數量	單價	金額	備考
軌道費	一哩	七二・八〇〇	七二・八〇〇	
電線路費	一哩	三〇・〇〇〇	三〇・〇〇〇	
車輛費	九	五・〇〇〇	四五・〇〇〇	
用地費	三〇〇坪	一〇〇	三〇・〇〇〇	
建物費	一三六坪	六三	八、六〇〇	
雜工事費			四、九七〇	
總係費			五〇〇	

合計	一九一・八七〇
----	---------

金五千圓  
以上

豫算費

電氣軌道收支豫算書

一金四萬六千七百貳拾圓

一金貳萬八千六百圓

收支差引

金壹萬八千百貳拾圓

收入總額  
支出總額

純益

以上ノ計算ハ全線完成後本市電車専用トシテ獨立往復運轉ヲナシ四條大橋交叉點ニ於テ既計畫營業線路ニ乘繼連絡ヲナスモノトシ左記豫定事項ヲ基礎トシテ計上シタルモノナリ而シテ支出額ハ既計畫線路ノ營業ト共ニ營業線路延長ノ増加ト見做シ支出増加豫定額ヲ計上シタルモノナリ

左記

收入

營業哩數 復線  
運轉車輛數  
發車度數

一哩  
八輛外ニ豫備一輛  
平均每三分ニ一回往復共



運輸平均速度	一時間ニ八哩
營業時間	二十時間
一日一車走行哩	平均一百哩
一日平均走行哩(全線)	八百哩
(貨率(全線))	貳錢
一車一哩平均收入(全線)	百貳拾八圓卽一車一哩收入拾六錢
右一ヶ年總收入	
全四萬六千七百貳拾圓	
支出	
事務費	三〇〇圓
動力費	七、二〇〇
變電所費	一、四〇〇
運輸費	一四、六〇〇
軌道費	八〇〇
電線路費	一、一〇〇
車輛費	二、四〇〇
建物費	一〇〇
雜支	一〇〇

豫備費

合計 五〇〇  
一八、六〇〇

起業目論見書

一、線路

下京區三條通大橋東詰大橋町百二十三番地先ニ起リ同區大和大路三條下ル五軒町百三十五番地先ニ於テ疏水運河ヲ渡リ疏水路西岸堤防上ヲ南へ下京區五條通五條大橋東詰朱雀町四百十一番地先ニ至ル專用軌道

二、線路哩數

零哩七十七鎖二十八節

全部複線

以上

議長ハ異議ナキヲ以テ原案ニ確定ノ旨ヲ陳告ス

電氣軌道岡崎線延長議事

大正二年十二月十日  
出席議員四十六名



一	番	堀田康人	二	番	竹上藤次郎
三	番	藤井伊兵衛	四	番	鈴鹿彌惣吉
五	番	深見伊兵衛	六	番	川上清
七	番	岡村方知	八	番	江羅直三郎
九	番	伊藤庄兵衛	十	番	伊達虎一
十一	番	宮川岸之助	十二	番	柴田彌兵衛
十三	番	伊藤平三	十四	番	井口巳之助
十五	番	福井市之助	十六	番	淺川平三郎
十七	番	西村金三郎	十八	番	上野捨次郎
二十	番	福井孝三郎	二十一	番	田畑房次郎
二十三	番	林長次郎	二十四	番	中川太一郎
二十五	番	高橋正博	二十六	番	北浦長七
二十七	番	太田重太郎	二十八	番	吉見逸等
二十九	番	瀧谷角藏	三十	番	淺見孝太郎
三十一	番	山下槌之助	三十二	番	鈴木吉之助
三十三	番	上田萬次郎	三十四	番	堀田傳七
三十五	番	三好龜太郎	三十六	番	前田嘉右衛門
三十七	番	井上治三郎	三十八	番	菅善三郎

- 第百八號議案
- |      |       |      |         |
|------|-------|------|---------|
| 三十九番 | 安藤繁治  | 四十番  | 澤田辰之助   |
| 四十一番 | 三幣保   | 四十二番 | 神田達太郎   |
| 四十三番 | 棚橋文作  | 四十四番 | 久保田庄左衛門 |
| 四十五番 | 高山與三吉 | 四十六番 | 山下好直    |
| 四十七番 | 谷口文次郎 | 四十八番 | 藤原清兵衛   |

自大正二年度至同三年度特別會計電氣鐵道延長費繼續年期及支出方法  
 電氣鐵道延長費內岡崎公園線建設費

金八萬六千五百圓  
 金九千五百圓  
 大正二年度支出額  
 同三年度支出額

右ハ電氣軌道事業ニ屬スル東山線ヨリ分岐シ岡崎公園ニ通スル電氣鐵道延長費ヲ二  
 年ノ繼續費トシテ支出セムトスルニ由ル  
 大正二年十二月七日提出

京都市長法學博士 井上 密  
 特別會計繼續費電氣鐵道延長費支出計算表



科 目	大正二年度	大正三年度	計	種 目	金 額	附 記		
							電氣鐵道延長費	岡崎公園線建設費
電氣鐵道延長費	八六,五〇〇,〇〇〇 円	九五,〇〇〇,〇〇〇 円	九六,〇〇〇,〇〇〇 円	一 用地費	三九,〇〇〇,〇〇〇 円			
岡崎公園線建設費	八三,五〇〇,〇〇〇 円	九五,〇〇〇,〇〇〇 円	九六,〇〇〇,〇〇〇 円	二 道路費	六,〇〇〇,〇〇〇 円			
一 豫備費	三,〇〇〇,〇〇〇 円		三,〇〇〇,〇〇〇 円	三 橋梁費	二〇,〇〇〇,〇〇〇 円			
				四 軌道費	一五,〇〇〇,〇〇〇 円			
				五 電線路費	二,〇〇〇,〇〇〇 円			
				六 總係費	一,〇〇〇,〇〇〇 円	○給料五百圓 ○雜給百圓 ○需用費百圓 ○雜費百圓		
				一 豫備費	三,〇〇〇,〇〇〇 円			

市參事會意見書

第百八號議案

原案同意

電氣鐵道延長線岡崎公園線建設參考書

第一 線路經過地

一起點 東山通夷川角、上京區岡崎町字德成地二十番地ノ三

終點 廣道通二條角、同區岡崎町西正地六十三番地

二 經過地 東山線德成橋南方夷川角ニ於テ既設東山線ヨリ分岐シ東へ疏水運河ニ至ル間ハ幅員九間ノ道路ヲ新設シ幅員九間ノ人車併用橋ヲ架設シテ疏水運河ヲ渡リ更ニ東へ冷泉通南側ヲ約三間半擴築シ應天門西方ニ至リ冷泉通ニ出テ在來道路ノ南側ニ沿フテ廣道通ニ至リ南ニ折レ廣道通ノ西側ヲ約三間擴築シテ南へ廣道通二條角ニ達スルモノトス(別紙線路平面圖參看)

第二 設計大要

一 軌道ノ單復、全部複線

二 軌道ノ延長 道路延長約零哩四八

三 軌道ノ構造 砂利軌道トシ軌條ハ長一碼ニ付キ重量九十二封度ノ溝形軌條ヲ用ヒ軌條面ハ花崗石板石張トス

但軌條及其附屬品、敷石、枕木ハ第一期線ノ殘品在庫品ヲ使用シ特種



軌道ノ一部不足品ハ之ヲ新調スルモノトス  
 四 電線路ノ構造 中央電柱複線架空式トシ電柱ハ鋼電柱ヲ用ヒ電燈電話ノ設備ヲナ  
 スモノトス  
 但分岐點屈曲點ハ側柱式ニ依ルモノトシ電柱其他第一期線ノ殘品  
 在庫品ヲ一部使用シ其他ハ全部新クニ購入スルモノトス  
 五 疏水運河橋 徑間約七十尺幅員九間ノ人車併用橋トシ橋桁ハ鋼版桁ヲ用ヒ步車  
 道ノ區別ヲ爲サス  
 六 道 路 東山線ト疏水運河間ノ新設道路面ハ砂利道トシ其他ハ擴築箇所及  
 軌道面ト在來道路ト適當ニ取付ケ體裁克ク施工スルモノトス  
 第三 收支豫定  
 一 電車運轉 回数 平均二分時毎ニ發車豫定  
 二 全線一日平均收入豫定 六拾圓但一日一哩約百貳拾圓ノ割  
 三 同上二日平均支出豫定 參拾圓但收入ノ五割  
 四 一ヶ年總收入額 貳萬壹千九百圓  
 同上 總支出額 壹萬九百五拾圓  
 同上 差引純益 壹萬九百五拾圓  
 但建設費總額九萬六千圓ニ對シ一割一分四厘ニ當ル  
 以上

第百九號議案

大正二年度特別會計臨時事業經濟歲出更正豫算  
 歲出  
 一金百拾七萬參千六百六拾六圓壹錢八厘  
 歲入出差引  
 殘金貳萬千百拾九圓七拾錢  
 大正二年度特別會計臨時事業經濟歲出更正豫算  
 歲出  
 大正三年度へ繰越

科 款	項 目	豫 算		附 記
		更正額	既決額	
一 道路擴築并 電氣鐵道建設費	一 道路擴築并 電氣鐵道建設費	三二八、八〇七、〇五八 円	三二八、八〇七、〇五八 円	
		三二四、三〇五、二九八	三二四、三〇五、二九八	
	二 電氣鐵道建設費	九三、〇六二、八一七 円	九三、〇六二、八一七 円	○電線路費參千四百圓減 ○用地費四萬千圓 ○建物費參萬六千五百圓減
四 雜支出		一六六、六七〇、〇〇〇	一六六、六七〇、〇〇〇	
			二七、七六七、〇〇〇	
			一、一〇〇、〇〇〇	







331  
66

大正三年三月二十日印刷  
大正三年三月二十五日發行

發行者

京都市役所

京都市上京區南禪寺町字高岸

印刷者 井手正三

京都市上京區柳馬場通二條下ル

印刷所 合資商報會社

京都市三大事業誌道路擴築編第三集ノ二終

1110



田原 合資商會

京都府京都市東區

田原 共 手 五 三

京都府京都市東區

發行所 京都市野田

大正三年三月二十五日發行

大正三年三月二十日印刷



終